



国際交流員ウィルペルトのコラム

海へ行こう Auf ans Meer (アウフ・アンス・メー)



海辺の夏休みは、山とはまったく別の経験です。

長い日照時間と強い風、乾燥した土壌と塩分を含んだ海の空気という厳しい気候が、他とは全く違う風景を生み出しました。松林やモジャモジャの草が生い茂る、いわゆるヒースです。家屋は赤レンガ造りが多く、大きく低く垂れ下がる伝統的な茅葺きの屋根は厳しい風をものともしません。



Reetdachhaus (c) Sven Bergmann via Flickr CC BY-NC-ND 2.0

海では、お目当てのビーチにたどり着く前に、砂丘や堤防を越えなければなりません。

堤防は、高さ10mにもなり、陸地を海から守っています。北海の地域は非常に平坦で、陸地が均等に隆起するのではなく、丘になったり窪んだりしているため、堤防の後ろには、海面より最大で3mも低い陸地が存在するのです。例えば、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州は、その約4分の1が海面下にあります。なので、もしそこで堤防が決壊したら、広い範囲が水浸しになってしまう可能性があります。隣国のオランダはさらに大変な状況で、国土の26%が海面下にあり、最も低いところでは6.67mも下になっています。

堤防がないところでは、砂丘が高潮から陸地を守ります。砂丘は、風によって積み上げられた砂の山で、幅が数百メートルのものもあり、陸地とビーチを広い帯のように分けています。その砂丘を風や波の浸食から守るのはモジャモジャの草や低木だけなので、砂丘を保護するため、指定された小道でのみアクセスできるようになっています。



5月中旬になると、涼しい水で泳ぐことができるほど暖かくなり、海水浴シーズンが始まります。海水浴のほかにも、砂の城を作ったり、貝やヒトデを集めたり、カニを捕まえたり、パラソルやビーチチェアで本を読んだりすることも楽しいです。一ちなみに、ビーチチェアはドイツ人に大人気です。ビーチに行ったときのリラックス感を自宅に取り入れたいと考えて、ビーチチェアを購入して庭に置く人も少なくありません。

ビーチでは、リラックスするだけでなく、アクティブな夏休みを過ごすことも可能です。サーフィンやウィンドサーフィン、ビーチでの乗馬など、体験できることはたくさんあります。特に人気のレジャーは、エビ漁船に乗ってアザラシがいる堤防を訪れたり、獲れたてのエビを味わったりできるツアーです。もうひとつは、アザラシ飼育場の見学です。ここでは、病気になったり弱ったりしたアザラシやハイロアザラシ、それらの子どもを、動物に優しい自然な方法で飼育・放流しています。



Krabbenkutter (c) Harald Henkel via Flickr CC BY-NC 2.0

海は、レジャーの場である前に、多くの発見が待っている生態系です。オランダ、ドイツ、デンマークの間に広がる北海全体は、世界最大の連続した干潟・Wattenmeer (ワッデン海) で、ユネスコ世界遺産にも登録されています。

ワッデン海では潮の流れが非常に顕著で、干潮と満潮の差は約3m。陸地が平らなため、水が引くと海底が何キロにもわたって露出します。そんなときは、海底の貝やカタツムリ、ミミズ、カニ、魚、クラゲなどの生き物を発見しながら、数時間にもわたって海底を歩き回ったり、隣の島まで歩いたりすることができます。



Wattwanderung (c) C. Pichler via Flickr CC BY-SA 2.0

もちろん、次の上げ潮には気をつけなければなりません。そのため、干潟歩きは必ず専門家のガイド付きで行くことをお勧めします。ガイドからは、泥の中に太ももまで沈んでしまった場合の脱出方法など、干潟に関する興味深い知識をたくさん得ることができるでしょう。

海辺の休日は健康に良いそうです。皆さんも、休日を海辺で過ごしてみませんか？